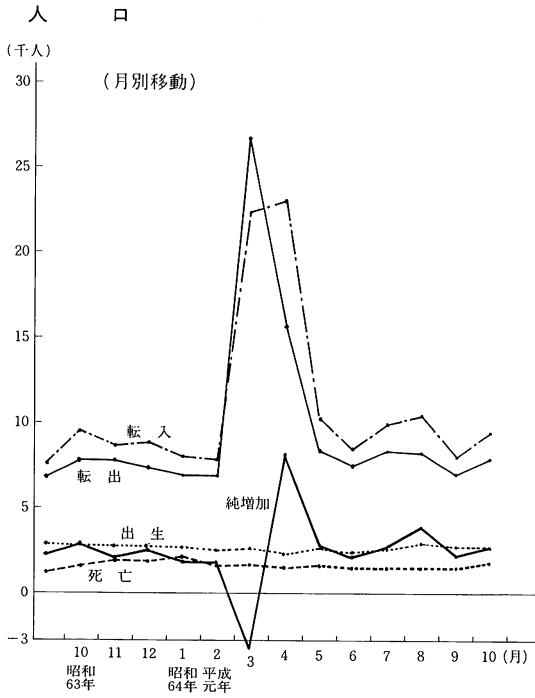
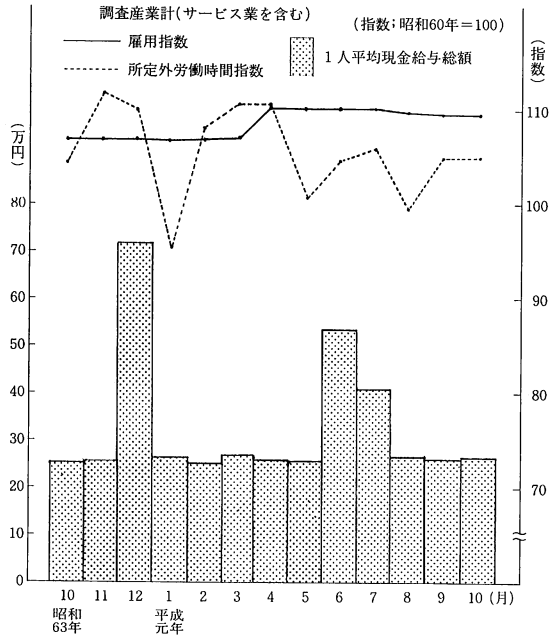


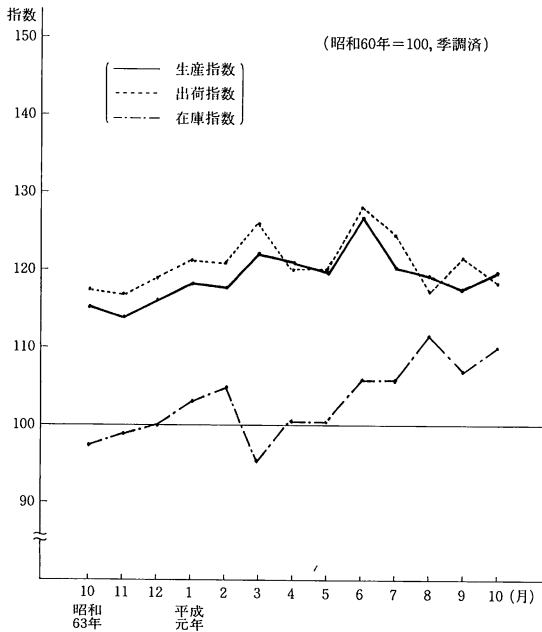
# 今月の主な動き



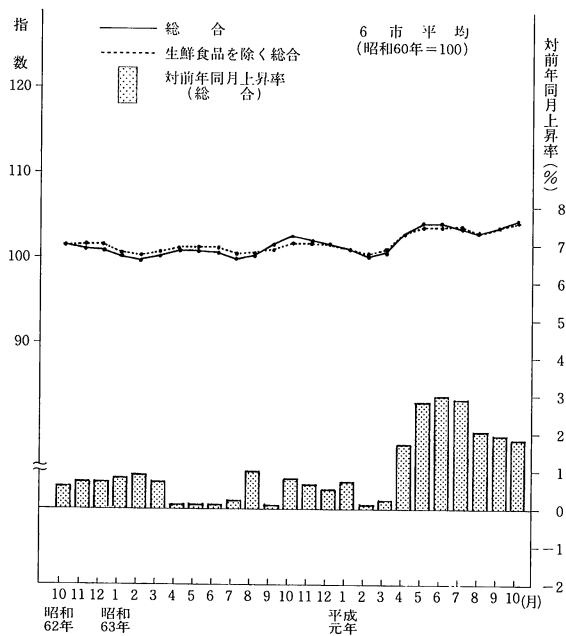
賃金・労働時間・雇用



鉱工業指数(生産・出荷・在庫)



消費者物価指数



主な動きのあらまし……………企画部統計課

■人口(11月1日)

本県の人口は、10月中に2,512人増加し11月1日現在で2,828,536人(男1,410,268人,女1,418,268人)となった。

内訳は、自然動態で985人(出生2,492人,死亡1,507人)増加し、社会動態で1,527人(転入9,369人,転出7,842人)増加した。対前年同月と比べると27,967人(1.00%)の増加

である。

市町村別では、増加が15市44町村、減少が5市22町村、増減なしが1町1村である。

世帯数についても10月中に1,380世帯増加し815,906世帯となった。

■賃金・労働時間・雇用(10月)

1. 平均賃金の推移

10月の現金給与総額は、調査産業計で261,205円、前年同月比3.3%増(前月は3.3%増)であった。このうちきまって支給する給与は258,113円、前年同月比3.8%増(前月は3.3%増)であった。

また、きまって支給する給与のうち所定内給与は、228,047円で、前年同月比3.8%増(前月は3.2%増)であり、超過労働給与は30,066円で、前年同月比3.5%増であった。

なお、物価上昇分を差し引いた実質賃金は、前年同月比1.4%増であった。

2. 労働時間

10月の総実労働時間は、調査産業計で178.7時間、前年同月比0.4%増(前月は0.4%減)であった。このうち所定内労働時間は159.9時間で、前年同月比0.3%増(前月は0.4%減)であった。所定内労働時間の前年同月比は、本年1月以降減少傾向が続いていたが、前年12月以来の増加となっている。

また、所定外労働時間は、調査産業計で18.8時間、前年同月比は1.1%増(前月はもちあい)となっている。

3. 雇用の動き

10月の常用雇用の動きを前年同月比によってみると2.0%増(前月は2.1%増)であった。

■鉱工業指数<生産・出荷・在庫>(10月分)

本県における平成元年10月の“鉱工業指数”(昭和60年=100)は、季節調整済指数で、生産が119.8、出荷が118.9、在庫が110.1で、前月比は、生産が1.6%の上昇、出荷が△2.5%の低下、在庫が3.0%の上昇であった。

前年同月比(原指数)は、生産が3.5%の上昇、出荷が0.8%の上昇、在庫が13.0%の上昇であった。

業種別に前月比をみると生産では、鉱業、石油・石炭製品工業、電気機械工業等が上昇し、精密機械工業、プラスチック製品工業、非鉄金属工業等が低下した。出荷では、電気機械工業、石油・石炭製品工業、繊維工業等が上昇し、

鉄鋼業、一般機械工業、パルプ・紙・紙加工品工業等が低下した。在庫では、非鉄金属工業、鉄鋼業、化学工業等が上昇し、輸送機械工業、精密機械工業、食料品・たばこ工業等が低下した。

特殊分類別にみると生産では、資本財、鉱工業用生産財等が上昇し、耐久消費財、非耐久消費財が低下した。出荷では、資本財、その他用生産財等が上昇し、耐久消費財、鉱工業用生産財等が低下した。在庫では、鉱工業用生産財、その他用生産財が上昇し、非耐久消費財、耐久消費財が低下した。

■消費者物価指数(10月)

平成元年10月の茨城県消費者物価指数(6市平均)は、総合で104.7(昭和60年=100)となり、前月比0.7%の上昇、前年同月比2.3%の上昇となった。

今月上がった主な項目……野菜・海草9.3%、果物2.2%、衣料2.2%、穀類1.0%

今月下がった主な項目……油脂・調味料△1.3%

生鮮食品を除く総合は104.2となり、前月比0.3%の上昇、前年同月比2.8%の上昇となった。

費目別指数

(昭和60年=100)

区 分	指数	上昇率(%)		区 分	指数	上昇率(%)	
		対前月	対前年同			対前月	対前年同
総 合	104.7	0.7	2.3	保健医療	105.9	0.0	2.7
食 料	104.6	1.4	1.6	交通通信	102.4	0.5	2.5
住 居	112.2	0.1	3.5	教 育	116.7	0.0	3.1
光熱・水道	87.9	0.1	0.0	教養娯楽	106.9	0.4	4.5
家具・家事用品	100.3	0.1	1.4	諸 雑 費	104.8	0.2	1.6
被服及び履物	109.6	1.3	3.5	生鮮食品を除く総合	104.2	0.3	2.8